

I 章

幸福な人生とは何か

この地球上で生きている全ての人が、その人生の日々を少しでも幸福に生きたいと強く願っているのではないだろうか。しかしながら、それを十分に果たせずに、悩み苦しんでいる人が数多くいるように思います。

このI章では、幸福に生きるとはどういうことであるのか、そしてその幸福な人生のヒントとなる考え方は、いかなるものであるのか、そんなことを、私なりに論じてみたいと思います。

第一講 「武道」とは、人を幸せにする教え

「武」という漢字は、「戈」と「止」の二つの漢字を組み合わせたものです。「止」の字は、鳥の足跡を形どった象形文字であり、本来は「進む」という意味であったようです。つまり、「武」とは、「戈を持って進む」ことを意味していて、広義に解釈しますと、「人が、さまざまに困難を乗り越え、道を切り開く道具（武器）を持って、人生を雄しく歩んでいく」という人生姿勢を示しているものだと考えるべきでしょう。

つまり、このような生き方をすれば、人は、自らの持てる力を存分に振るって、この人生を力強く生きていくことができるのではないでしょうが。

そんな充実した人生こそが、幸せな人生だと私は考えています。

● なぜ「武道」は、人を幸せにするのか

まずここで論じてみたいと思うのは、なぜ「武道」は、人を幸せにするのかということです。それに先だつて、まず「武道」という言葉が示しているものが何かということを考えておきたいと思います。

よく「武」という漢字は、「戈^{ほこ}」と「止」の組み合わせによってできている字だから、「戈を止める」、つまり、他からの攻撃に対してそれを防ぎ、平和や安全を守るためのものである、と解説されます。ところが、「止」という漢字は、もともとは鳥の足跡の形から生み出された象形文字であり、本来は、「足跡を残す」という意味で使われていたようです。つまり、「止める」ではなくて、「進む」意味であったということです。そうすると、「武」とは、「戈を持って進む」という意味になります。

ならば、それをどう解釈するかが問題になりますが、「攻撃は最大の防御なのだ」と言ってしまうのは、「武道」の本質を見誤ってしまう気がします。やはり、それを人生に敷衍^{ふえん}する中で、その意味を感得すべきでしょう。つまり、「様々な困難を乗り越え切り開く道具（武器）を持つ



て、人生を雄々しく歩んでいく」という前向き
の人生姿勢を意味していると考えるべきではない
でしょうか。

一方、「道」という漢字は、古代漢字学の権威
とされた白川静博士（しらかわしずか）によれば、「首」と「辵」か
ら構成された字であり、「首を手携えて行く」と
いうのがその由来だとしています。そして、この
「首」とは「頭」であり、人間にとって最も大切
な部分となります。さらに、「首」そのものは、血
管や気道、食道や神経が通っていますから、様々
なものを結び合わせ流通させる大事な場所とい
う意味にもなるかと思えます。つまり、人生を生
きていく上に最も大切であり、さらに命を維持す
る上に必要な様々なものが行き交う場が、「道」と
いうことでしょう。